

# 持続可能な社会の探究Ⅰ 国際関係と課題解決

社会科（公民） 北 原 武

## 1. はじめに

本講座は、貧困や平和、人権に係るグローバル社会における諸課題が発生する背景・要因について考察し、その解決のための具体的方策について探究する活動を通じて、グローバルな視野と課題解決力を有する人材の育成を目指すことをねらいとしている。

本年度は「情報化が進む世界においてサイバー問題にどう対応すべきか」、「現在世界が直面する、もしくは今後直面すると想定される社会課題を解決するために、どのように企業に投資すべきか」という2つの探究テーマを設定した。4・5月は、課題探究を進める上で必要となる基礎的な能力を形成する期間と位置付け、授業において、探究基礎力をテーマとした演習を実施した。課題探究を進める上で必要となる基礎的な探究力の養成を図った上で、6月に日本アイ・ビー・エム株式会社の職員を招聘し、グローバルリーダーシップや国際交渉をテーマとする特別授業を実施した。また、途上国での市場調査を請け負う企業でインターンを行っている立教大学の学生を招き、途上国ビジネスで重要な市場調査の方法や交渉の仕方等を演習形式で学んだ。2学期は、社会の第一線で活躍する民間企業の職員等による「社会、人、暮らしを支える仕事の力」をテーマとするリレー講義を踏まえ、「未来を支える私の力」をテーマにレポートを作成する「第16回日経エデュケーションチャレンジ」（日本経済新聞社主催）、「国際安全保障の文脈における情報及び電子通信分野の進歩」をテーマにポジションペーパーや勉強会等で得た知識を基に各国代表の立場で議論を行う「第10回全日本高校模擬国連大会」（グローバル・クラスルーム日本委員会及び公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターによる共催）、経済や株式投資についての基礎的な知識を学習した上で、チームで議論して投資テーマを決定し、ポートフォリオを作成する「第17回日経STOCKリーグ」（日本経済新聞社主催）への参加を生徒に課し、互いに協力して課題に対する考察・探究を進め、課題を解決するための方策など、自分たちの探究の成果を他校の生徒や民間企業、国際機関等に対して発表・提言する機会を設けた。こうした活動の中で、期限を意識しながらグループ内で作業の分担・進捗管理を行わせ、異なる意見・価値観を持つ他者と議論や調査等を重ねながらプレゼンテーションの内容や成果物をまとめ上げていくことにより、汎用的能力の育成を目指した。

本授業では、これから探究活動を始める1年生に、自身の探究成果と探究過程における成功体験や失敗体験を伝えることで、組織的に持続可能な社会の探究Ⅰの成果の質を向上させることとともに、2年生が自身の活動を振り返り、次年度必修である持続可能な社会の探究Ⅱにつなげることをねらいとした。

## 2. 対象生徒

第2学年「国際関係と課題解決」受講者 21名

第1学年「国際関係と課題解決」次年度受講者 20名

## 3. 実施及び生徒の様子

日時：3月18日（土）

10:00～11:50 2年生「持続可能な社会の探究Ⅰ」（総合的な学習の時間）  
の各講座代表生徒による成果発表

「夢を知らない君へ。～ドリーム指数の活用による株式投資～」

13:00～14:30 各講座ごとに分かれての1・2年生交流学习

①本時の説明

②2年生探究成果発表

「PPAS～Protect Precious Available Sekaiisan～」

「女性に優しい企業を「アイドル」から創り出す」

「へらそう、フードロス。なくそう、食料分配問題。」

「輝けシニア！～年寄笑うな行く道じゃ～」

「全日本高校模擬国連大会報告」

③1・2年生交流学习

各グループでの7分間の質疑応答を全6グループで実施

④ワークシートを用いた本時の振り返り



代表生徒によるプレゼンテーション



各グループでの1・2年生交流学习

## 4. おわりに

1年生の振り返りシートを見ると、「自分なりの疑問や課題をもって臨むことができた」とする生徒が18人（90.0%）、「自分なりの疑問や課題に感じていたことを解消することができた」とする生徒が18人（90.0%）となっている。また、「積極的に話し合いに関わろうとした」とする生徒も18人（90.0%）となっていることから、本授業には大きな成果があったと言える。一方で、「国際関係と課題解決」という講座以外からも話を聞いたかったという声もあり、次年度以降の運営方法の改善に向けて検討を重ねていきたい。